

おいしい図書館 No. 5

千葉の 図書館事情

前回松戸の図書館の活動内容を調べ、設備と人材の充実が大勢であることがわかりました。

今回は、読売新聞記載の県内図書館事情の記事を参考にいくつかの項目を話し合い、その後松戸市の一九九二年度の予算から図書館関係費をとり出し、財政的にどのような状態なのかを検討しました。

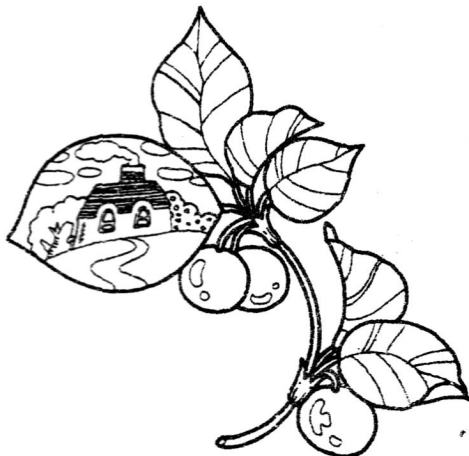
記事は、千葉県内の公立図書館の九七%が都市部に集中し、約五十ある町村部のうち図書館

があるのは残りの三%である四町だけと指摘しています。これではぶらりと気軽に立ち寄ることもできないし、子供は一人では行けず、普段は閑散としていくそうです。だれでもが自由に利用できる環境をつくることに自治体はもつと積極的に取り組んでほしいものです。



司書職も、専任職員に占める割合はかろうじて過半数を超えています。が、きめの細かい質の高いサービスを実現するには、もつと高い数字が必要でしょう。又、元浦安図書館館長の竹内紀吉氏の談話で、「図書館の予算は一般予算の1%を充れば、どんな小さな自治体でも立派な

活動ができるはずですよ。とありました。自分の住む地域に図書館もなく、又、あったとしても、図書館のフロアである司書の数も少なく、置いてある本が古く、数も多くなければ人々の足は遠のくでしょう。私たちの生活のリズムに合った図書館であれば、自然入々は身近に感じ、生活の一部となり、活気のある図書館になるのではないのでしょうか。



松戸の予算

竹内氏が誌した「一般予算の
一%を図書費に」を頭に置いて、
松戸の予算を比較してみました。
一般予算は一千百五億円で、一

%なら十一億五千万円となりま
すが、現状は〇.三%の三億三千
万円にすぎません。この数字で
は活動内容も乏しいものになる
でしょう。

細かく見ていくと、実際の図
書購入費は約八千万円です。又、
委託料という項目が数ヶ所あり
ました。図書

整理委託料が
約五百万円、

おはなレキヤ
ラバン事業委
託料が四千万
円、本、分館

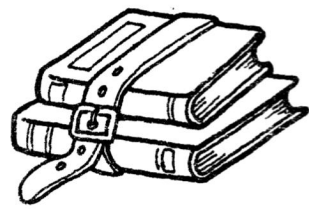


整理委託料八千四百万円が計上
されていきます。この図書整理委
託料というのは何に使われてい
るのでしょうか。本、分館管理
委託とは、何を委託しているの
でしょうか。今後調べていくこ
とにしました。

又、おはなレ
キヤラバン関係
費と図書購入費
の割合が一對二
で、松戸では、

おはなレキヤラ
バンの位置が大
きいことが感じられました。
親子読書会・子ども文庫連には
十七万五千円ということもわか
りました。

話し合いが進んでいく中で、
図書館を市民誰でもが気軽に利
用できる施設に整えていくため
に、より多くの市民の声を行政



に届け、早く実現させていかな
ければとの思いが強くなりまし
た。
(菊地)

後がき
県内で今だに図書館の
ない町があるとは驚き！
むしろ町村部の方が必要性が
あるでしょうに……。人口一人
当たり貸出冊数日本一は七千
人の訓子府町。二位は四千七
百人の置戸町（共に北海道）。
生活のリズムにあった図書館
づくりの意義深さを感じます。
この会を作る時、本館だけ大
きくするのはなく、分館の
充実を要望する声も多かった
ことを思い出しました。

発行 「おーい図書館」
連絡先 青木 和子

松戸市総合ホール六〇
〇四七三(六七)五三三四